



食と農のわくわくSDGs学習

令和5年度取組校 実践事例集



新 潟 市

新潟市教育委員会



新潟市食育・花育推進キャラクター
まいかちゃん

目 次

I. 令和5年度モデル校

1. 山の下小学校(5年)
「チャレンジマイライス」……………1
2. 山潟小学校(3年)
「米と米粉の活用」……………3
3. 大淵小学校(5年)
「大好き大好きにいがた！ 大好き大江山！ 『食と人々とのかかわり』」……………5
4. 白根小学校
「作ろう 学ぼう 大豆のチカラ」(3年)……………7
「おいしいしろね！ しろねの『食』探検隊～食について考えよう～」(5年)……………9
5. 升潟小学校(4年)
「農業を中心に地域を元気にする～イチジクで地域の活性化に挑戦する～」……………11
6. 松浜中学校(3年)
「伝統的な食文化の継承と地域食材からトレンドを生み出そう！」……………13
7. 新津第一中学校(1～3年)
「稲作体験活動」……………15
8. 小新中学校(2年)
「小新ハローワーク(前期)、小新ジャーニー(後期)」……………17
9. 明鏡高等学校(1～3年)
「キャリア教育(社会の一員として)」……………19
10. 日本文理高等学校(1年)
「食・農に関する調査活動や体験活動を通して、食の大切さを知り、行動したり発信したりしよう！」……………21
11. シェフパティシエ専門学校(2年)
「地域の特産品を活用した商品開発をしよう」……………23
12. 新潟国際情報大学(1～4年)
 - ① 「生産性向上と持続性の両立に向けたスマート農業のあり方とその実践
—ロボット, AI, IOT 技術の農業—」……………25
 - ② 「地域資源を活用した第6次産業の創出と経営戦略」……………27

II. 令和5年度実践校(令和4年度モデル校で令和5年度も食と農のわくわくSDGs学習に取り組んだ学校)

13. 味方小学校(5年)
「地域を支える農業を次世代へつなぐ～味方の未来を考える～」……………29
14. 小針小学校(5年)
「小針の魅力を未来へ」……………31
15. 新通つばさ小学校(5年)
「大好きにいがた体験 わたしたちの食(米)」……………33

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	山の下小学校		学年	第5学年（38人）		
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	2 飢餓をゼロに（食料安全保障、持続可能な農業）		
単元名	チャレンジマイライス ～未来につながる新潟の米づくり（55時間）					
ねらい	新潟の米づくりについて調べたり体験したりする活動を通して、これからの農業や食料自給の課題に気づき、地域とのかかわりの中で自分たちができることや協働して取り組むべきことを考え、実行できるようにする。					
評価規準	<p>【知識・技能】・米や米粉、これからの農業や食料自給の課題について知るとともに、様々な人々が連携して課題解決に取り組んでいることや自分たちにも関係していることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した調査やインタビュー・質問紙などによる調査を目的や場面に応じた方法で実施している。 ・学習したことを地域や家庭に向けて発信することは、持続可能な社会を実現する手立てにつながることに気付いている。 <p>【思・判・表】・米の消費量を上げる方法について、自分なりの課題を設定するとともに、解決に必要な方法を明確にしながらかの計画を立てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米の消費量を上げる方法について、現状や問題点を理解するために必要な情報を目的に応じた方法を選びながら収集している。 ・米の消費量を上げるために有効な手段について整理し、理由や根拠を明らかにしながら分析している。 ・これからの農業や食料自給の課題解決に向けて考えたことを、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・米の消費量を上げるという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる意見や考えを活かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 ・自分と地域とのつながりに気づき、地域の活動に参加するとともに、地域のためにできることを考え行動している。 					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	<p>「はじめよう！新潟の米づくり」という小単元を設定し、学校田の田植え体験を通して、新潟の米づくりについて関心を高めるとともに、農家さんの工夫や苦労について知る。（6時間）</p>	<p>「調べてみよう！新潟の米づくり」という小単元を設定し、米づくりの1年間について調べ、農家さんが様々な工夫や苦労をしながら仕事をしていることや、それにも関わらず米の消費が減っていることを知る。</p>	<p>「このままでいいの？新潟の米づくり」という小単元を設定し、米の消費だけではなく、食料自給率が減少していることや、食料安全保障・持続可能な農業のために取り組むべき課題について調べる。（5時間）</p>	<p>「考えてみよう！米の消費拡大」という小単元を設定し、米の消費拡大・食料自給率の向上に向けて、農家さんの取組や自分たちで調べた消費拡大のアイデアについてまとめ、校内で発表会を開く。（8時間）</p>	<p>「育ててみよう！新潟の米づくり」という小単元を設定し、自分たちでバケツ稲を栽培・記録する活動を通して、農家さんの苦労や作物を育てる喜びについて知る。（6時間）</p>	
専門家の情報提供	交通費の助成		専門家の情報提供	交通費・宿泊費の助成		
学校田の指導者	教育田バス代 33,500円（支援額 30,000円）		アグリパーク	アグリパークの宿泊体験代 96,350円 バス代 72,600円（支援額 60,000円）		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	<p>「収穫しよう！おいしい新潟のお米」という小単元を設定し、学校田の稲刈り体験を通して、収穫の喜びを知ると共に、収穫した米を使った調理実習にも取り組み、新潟米のおいしさも知る。（6時間）</p>	<p>「調べてみよう！米粉のよさと未来」という小単元を設定し、米の消費拡大には米粉の活用が有効であることを知り、専門家の話や調理実習を通して米粉のよさや活用方法などについて理解を深める。（6時間）</p>	<p>「まとめよう！米粉のよさと未来」という小単元を設定し、米粉の活用を呼びかける発表会を企画し、ICTを活用した調べ学習やインタビュー活動などを通して、自分や家庭でできる方策を調べ、まとめる。（6時間）</p>	<p>「発信しよう！米粉のよさと未来」という小単元を設定し、食料安全保障・持続可能な農業のため、米粉の活用を呼びかける資料を準備して発表会を開き、保護者や地域の方に聞いてもらう。（6時間）</p>		
専門講師の派遣	交通費の助成		専門家の情報提供	交通費の助成		学習成果の発信
学校田の指導者	教育田バス代 35,970円（支援額 30,000円）		県庁の担当者	アグリパークの体験 バス代 66,000円（支援額 30,000円）		東区副区長



 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告

学校名 山の下小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

山の下小学校では、5年生の総合的な学習の時間に「新潟の米づくり」を題材にした活動に取り組んでいる。従来は、田植えや稲刈りの体験を通して、農家の仕事について学んだり、栽培した米を使った調理実習を通して収穫の喜びを味わったりすることが中心だった。今回、SDGsの視点（2 飢餓をゼロに：食料安全保障、持続可能な農業）を取り入れることで、さらなる学習の充実を目指した。その際、児童の思考過程を大切にしながら、以下のポイントに留意して活動に取り組んだ。

①「ふるさと新潟の米づくりを未来に引き継ぐこと」を目指す

児童にとって「食料安全保障や持続可能な農業を目指すこと」だけでは、身近な課題として捉えにくい。そこで、学校田での田植え、稲刈り体験をもとに、「ふるさと新潟の米づくりを未来に引き継ぐこと」を目指し、活動に取り組んだ。

②持続可能な農業のため「米粉の活用」について学ぶ

探究的な活動を通して、米の消費拡大、食料自給率の向上のため、米粉の活用が有効であると児童は考えた。その理解を深めるため、新潟県庁から講師を招いたり、地域で米粉を使った商品を販売する店舗から話を聞いたりする活動を取り入れた。

③新潟市アグリパークとの連携を深める

従来から、5年生はアグリパークで宿泊体験を行っていたが、今年度は「循環型農業」を体験メニューに加えた。また、アグリパークで米粉を活用した調理実習に取り組んだり、学習発表会でアグリパークの指導主事から指導をもらったりした。

2 主な協力団体・協力者等

- ・学校田の指導者様 【田植え・稲刈り体験】
- ・新潟市アグリパーク様 【米粉を活用した調理実習】
- ・新潟県庁食品・流通課様 【米粉活用についての講話】
- ・新潟市東区役所様 【学習発表会での指導】



学校田での田植え

3 成果

本単元を通して、児童は「ふるさと新潟の米づくりを未来に引き継ぐためには、米粉の活用が有効である。米粉の活用は米の消費や生産拡大につながり、それは食料自給率の向上、そして豊かな社会の持続にもつながる」ということについて理解を深めることができた。また、前述のポイントについての成果は以下の通りである。

① 学校田でお世話になった農家を思いながら「ふるさと新潟の米づくりを未来に引き継ぐこと」を目指すことで児童の課題意識を高め、主体的に活動することができた。また、児童一人一人の関心を重視し、それぞれが探究的に学習に取り組めるようにし、学習の成果を共有する時間を設定し全体の成果につなげた。



学習内容の共有

② 米の消費拡大のためには米粉の活用が最も有効であると考え、新潟県が進める「にいがた発R10プロジェクト」と関連させながら学習を進めることができた。米をご飯として主食にする以外にも、パンや麺、デザートなどとして多様に活用できる米粉のよさについて理解を深めることができた。



食品・流通課による出前授業

③ アグリパークとの連携を深めることで、石臼を使って米粉を作ったり、米粉と小麦粉を比較しながら調理実習に取り組んだりし、学校だけではできない体験をすることができた。この体験を通して、米粉のよさやおいしさについての理解が深まり、活用の呼びかけにも役立てることができた。



アグリパークでの活動



総合学習発表会

4 課題

- ・課題を解決するために、ICTを活用した調べ学習を中心にしたが、さらに農家や米粉を活用する業者から話を聞く機会を設けることが必要だった。
- ・地域の商店とコラボして米粉商品をアピールしたり、公民館や保育所で発表したりする機会を設けることでさらに児童の発信力が高まると考えられた。

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	山潟小学校	学年	第3学年（73人）
教科等	総合的な学習の時間	関連SDGs	12 つくる責任 つかう責任
単元名	米と米粉の活用（35時間）		
ねらい	地域や新潟市の米作りを調べる活動を通して、新潟市の米作りへの関心を持ち、地域や新潟市のために自分ができることや協働して取り組むべきことを考え、実行できるようにする。		
評価規準	<p>【知識・技能】・新潟市は米作り盛んで、今後もみんなで力を合わせて大切にしていけるものであることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査活動を目的や対象に応じて実施することができる。 ・自分の地域のために自分で考えて行動することは、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題の解決につながることに気付いている。 <p>【思・判・表】・地域や新潟市の米作りについての関心をもとに、課題をつくり、解決の見通しをもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し蓄積している。 ・学んだことや思いを、相手や目的に応じて分かりやすく表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・地域や新潟市との関わりの中で自分ができることを見付けようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け、協働して学び合おうとしている。 		

4月	5月	6月	7月	8月	9月
----	----	----	----	----	----

山 潟 の お 宝 を 探 そ う

自分たちが住んでいる山潟の会社・店・自然・文化財に関する調査活動を通して地域で働く人の活動や願い・自然の実態を知る。

10月	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市の特産物について調べる。 ・新潟市は米の生産が盛んなことを知る。 <p>(10時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米の消費量が年々減ってきていることに気付き、課題意識を持つ。 ・米粉に着目する。 <p>(5時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アグリパークでの「アグリオリエンテーリング(米粉)」に参加し、米粉の可能性について体験する。 <p>(3時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米粉を使って「カップケーキ」以外にどのような料理が作れるか調べる。 ・炊く以外の調理法を調べる。 ・米の消費量を増やすために考えたメニューや取り組みをポスターにまとめ、全校に伝える。 <p>(15時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米粉を使ったメニューを給食に出してもらい、全校生徒に米の良さやおいしさを再確認してもらう。 <p>(2時間)</p>	

交通費の助成
 使用料及び賃貸料
 バス代 83,600円（支援額83,600円）



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告

学校名 山潟小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・SDGsの「12 つくる責任 つかう責任」の視点から本単元「米と米粉の活用」を作成した。
- ・新潟市は米作りが盛んであり、それらを今後もみんなで力を合わせて大切にしていけるものであることを理解させる。
- ・新潟市の特産を調べる過程で米の消費量が年々減ってきていることに気付き、課題意識をもたせる。
- ・自分の地域のために自分で考えて行動することは、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題の解決につながることに気付かせる。

2 主な協力団体・協力者等

- ・新潟市アグリパーク様
- ・学校支援課 村上 大樹様



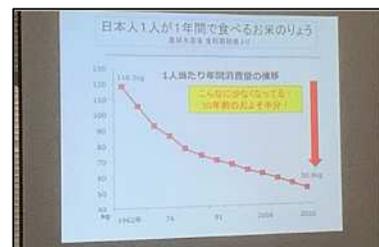
【考えてみよう！米粉からお米のこと】

3 成果（児童の振り返り）

- ・小麦粉と同じくらい米粉にもよいところがたくさんあることが分かった。
- ・家でも米粉を使ったレシピを使っておかずやスイーツを作りたい。
- ・米粉は料理にすると小麦粉よりもモチモチしていて驚いた。
- ・お米の自給率を今まで知らなかったから、今回調べることができて良かった。
- ・お米には体にとって大切な栄養がたくさん入っていることがわかった。
- ・これからもお米をたくさん食べて、元気な体をつくりたい。
- ・お米の消費量が減っていることが分かった。「お米を食べよう」というポスターを作りたい。
- ・総合の勉強をして、お米の良さに気付くことができた。消費量を増やすために自分

にできることを少しずつやってみてみたいと思った。

- ・他の県の人にも、新潟のお米をたくさん食べてほしいと思った。
- ・アグリパークに行って、お米の良さを勉強できてよかった。
- ・みんなの前で勇気を出して発表できた。お米のすばらしさをたくさんの人に知ってもらえてよかった。
- ・自分でもお米を育ててみたい。
- ・お米や米粉についてもっと調べたいと思った。



お米について改めて学ぶ



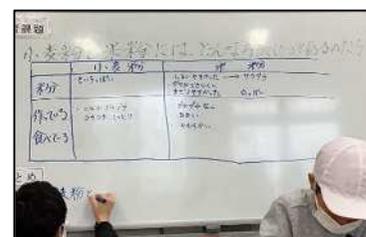
米粉と小麦粉の蒸しパン作り



見た目や香りなどの違いを見つける



米粉と小麦粉をそれぞれ試食



気付いたことをまとめる



分かったことを学習参観で発表

4 課題

- ・消費量や自給率については3年生には少し難しいように感じた。
- ・授業時数を多く確保する必要があった。

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	大淵小学校	学年	第5学年（18人）		
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	9 産業と技術革新の基盤をつくろう		
単元名	大好きにいがた！大好き大江山！「食と人々のかわり」（70時間）				
ねらい	米作り体験や、自分の住む地域の農家の方の話を聞くことを通して、農産物が人々の努力によって作られたり流通したりしていることを知り、食についての思いをもち、今後の地域や新潟市のために自分ができることや協働して取り組むべきことを考え、実行できるようにする。				
評価規準	<p>【知識・技能】・米や今後の農業について知るとともに、食に携わる方々が様々な立場で相互に連携していることや、自分たちの生活と関わっていることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューや質問などによる調査を目的や場面に応じた方法で実施している。 ・自分の地域の米作りのために自分で考えて行動することは、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題の解決につながることに気付いている。 <p>【思・判・表】・食や農業に対する自分の課題を決め、手段を選択して調べ情報を蓄積している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。 ・今後の地域や新潟市のためにできることこの考えについて、相手や場に応じたまとめ方を工夫し、表現する。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作りを経験し、社会参画意識をもち、自分の生活に生かそうとしている。 				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> ・米の収穫までの流れなどについての事前学習や、田植え体験を通して、農業のよさや苦労を実感し、自分事として捉える。 <p>(10時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・江南区（江口）農家から、地域の農業の現状や課題について聞き、課題を設定する。 <p>(5時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に優しい米作りや人手不足解消のスマート農業について調べたり、学校田で稲刈りまでの手入れをしているところを見学したりする。 <p>(10時間)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・農業大学校で行っている最先端の農業を実際に見て、これからの農業についての関心を高める。 <p>(5時間)</p>	
専門家（農家）の情報提供			交通費の助成		
使用料及び賃貸料 バス代 13,375円（支援額13,375円）					
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・収穫した米を、どのように活用するか話し合う。 ・収穫した米を全校に配布したり、調理実習で使ったりする。 <p>(10時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業や1等米の工夫などについて、農家やJAに発表し、自分たちの取組を見直し、今後の取組の見直しをもつ。 ・農家やJA、見守りボランティアの方に、感謝の気持ちを込めて、おにぎりを提供する。 <p>(10時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の猛暑から、米をPRする方法を考える。 ・新潟県地域振興局の方から、品種改良などについてのお話を聞き、これからの米作りについて考える。 <p>(10時間)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・品種改良やお米のPR方法について、農家やJAの方に発表し、江南区の広報誌で紹介してもらう。 <p>(10時間)</p>	
学習成果の発表		専門家（新潟県地域振興局）講師の派遣		学習成果の発表・発信	



 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告

学校名 大淵小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

・従来の総合的な学習の時間では、田植えと稲刈りの体験活動を通して、手作業の苦勞を知ることを中心に学習してきた。今年度は体験活動だけでなく、スマート農業や品種改良など、深い内容についてのお話を聞く活動を多く取り入れた。



稲刈り体験

・体験したことや聞いたことをそのままにするのではなく、それらを通して学んだことをまとめ、総合的な学習の時間でお世話になった方に紹介・提案する時間を2回設けた。

・収穫したお米を調理実習で使い、収穫の喜びを味わうだけでなく、日頃お世話になっている地域の方や、総合的な学習の時間でお世話になった方に、おにぎりを提供し、感謝の気持ちを伝える場面を設定した。

2 主な協力団体・協力者等

- ・学校田の管理者様
- ・JA 新潟市様
- ・農業大学校様
- ・新潟地域振興局様



農業大学校で機械の見学

新潟地域振興局の方から
品種改良などについてのお話

3 成果

・田植えと稲刈りを全員で手作業で行うことで、農家さん1人で1年間、お米作りをしていることへの大変さを実感することができた。また田植え後に、農薬などで管理して、稲が病気にならないようにしている様子を見させてもらい、収穫への期待と、農家さんへの感謝の気持ちを高めた。



・2回の発表会を、同じ方をお呼びして行ったため、農薬をまく道具をかつぐ発表内容や発表の仕方の成長を感じてもらうことができた。

・農業大学校や新潟地域振興局を紹介していただいたおかげで、スマート農業や品種改良についてお話を聞くことができた。

・農業大学校で、農業機械の自動化が進んでいることや、若い人が農業について一生懸命学んでいることを知り、これからの農業への期待と、人材不足に対する課題を感じる、いいきっかけとなった。

・本年度の猛暑の影響で、収穫したお米の1等米比率が低かったことから、お米のPR方法を考えた。PRキャラクターやPRクイズなど、大人では思いつかないような子どもらしいアイデアがよかった、と褒めていただいた。



見守りボランティアの方や総合学習に関わっている方を招いた、収穫祭兼中間発表会

4 課題

・いろいろな農業体験をしたり、最先端な技術を見たりする校外学習を行うための、金銭的な支援がもう少しあると、児童が身をもって農業に対する関心を高めることができると感じた。

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	白根小学校	学年	第3学年（84人）			
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	12 つくる責任 つかう責任			
単元名	作ろう 学ぼう 大豆のチカラ（70時間）					
ねらい	大豆を育てるなかで問いを見出し、解決に向けて調査したり、情報を基に考えたりする力を育む。 大豆について、発見したり考えたりしたことをまとめたり、表現したりする力を育む。 大豆を育てたり、調理したりするなかで、地域の人たちとかがわりを深めようとする態度を育てる。					
評価規準	<p>【知識・技能】・白根地区は農業が盛んで、今後も農業への取組や人とのつながりは大切にしていけるべきものであることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査活動を目的や対象に応じて実施することができる。 ・自分の地域のために自分で考えて行動することは、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題の解決につながることに気付いている。 <p>【思・判・表】・大豆作りについての関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し蓄積している。 ・学んだことや思いを、相手や目的に応じて分かりやすく表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・地域との関わりの中で、自分にできることを見付けようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け、協働して学び合おうとしている。 					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	<p>・「白根をしようかいしょう」で取り組み、白根の地域に関心をもつと共に総合で活用しているスキルを学ぶ。</p> <p>・白根から新潟に広げて考え、新潟が農作物の産地であることと、＜食育＞での大豆の学習から「大豆をもっと食べよう」（仮定）という課題をもつ。</p> <p style="text-align: right;">（10時間）</p>		<p>・大豆を好きになるために、農家の方に栽培方法を教えてもらいながら、自分たちで大豆を育てる活動を行う。</p> <p>・大豆の栽培の仕方や大豆について調べ活動を行う。</p> <p style="text-align: right;">（10時間）</p>		<p>・大豆を使った料理を調べ、夏休みに家庭で作り、休み明けに発表する。</p> <p>・国語の「すがたをかえる大豆」より大豆の加工品を知り、加工品から栄養をとる良さを考える。</p> <p>・枝豆を収穫・試食する。枝豆のおいしさの秘密について調べる。</p> <p style="text-align: right;">（10時間）</p>	
専門家の情報提供	報償費 食育マスター 7,600円 大豆農家 5,200円		専門家講師の派遣	報償費 大豆農家 5,200円		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	<p>・大豆の収穫・脱穀をする。</p> <p>・大豆の加工品を作る。（豆腐・きなこ・みそなど）</p> <p style="text-align: right;">（5時間）</p>	<p>・大豆について調べたことや体験したことをまとめ、思ったことや考えたことをまとめる。</p> <p style="text-align: right;">（10時間）</p>	<p>・大豆を調べる活動に協力して下さった地域の方やお家の方に調べたことや自分たちが考えたことを伝える。（感謝の会・参観日など）</p> <p style="text-align: right;">（15時間）</p>		<p>・「大豆をもっと食べよう！」で、自分たちが調べて分かったことなどを全校に呼びかける。</p> <p style="text-align: right;">（10時間）</p>	
専門家講師の派遣	報償費 大豆農家 5,200円		使用料及び賃貸料 アグリパークバス代 75,160円（支援額 75,160円）	学習成果の発信 交通費の助成	学習成果の発信	
	報償費 大豆農家 5,200円			報償費 味噌づくり講師 5,500円		



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告

学校名 白根小学校 3学年

1 本単元作成のポイント、留意点等

※★のところは、今年度の改善点

★大豆の栄養についての出前授業（高橋政子栄養士さん）により、以下のことを学べるようにした。

- ・給食で大豆料理の残量が多い。（SDGsの視点）
- ・大豆は「畑の肉」と言われるほど栄養価が高い。
- ・大豆からたんぱく質を摂るのは、健康的である。

★新潟は、枝豆の生産量が全国的に高く、自慢の一つであることと、大豆の栄養価が高いことから、身近で摂れる大豆（枝豆）をもっと食べることを課題とする。

○大豆を栽培するために、大豆の先生に植え方や育て方を教わり育てる。

★枝豆を収穫するにあたり、枝豆を1年中食べるために枝豆料理を調べる。調べるにあたり、シェフパティシエ専門学校の先生より枝豆料理のメニューと作り方を教えてもらう。夏休みに自分が選んだ枝豆料理をお家の人と作る。

○大豆の収穫、豆落としを大豆の先生とともに行う。

○収穫をした大豆を使ってアグリパークで豆腐やきなこを作る。また味噌屋さんで講師として来ていただき、味噌も作る。

○大豆の先生やボランティアさんをお招きし、大豆感謝の会を行う。今まで学んだことについて発表する。

2 主な協力団体・協力者等

- ・大豆の先生（今井剛様）
- ・栄養士 高橋政子様
- ・シェフパティシエ専門学校 児玉様
- ・アグリパーク様
- ・糰屋団四郎（味噌屋）様

3 成果

・栄養士の方から大豆の栄養の素晴らしさを教えていただいていたことにより、大豆を食べるにはどうしたら良いかを意欲的に考えられた。

・枝豆を1年中食べるために、乾燥大豆や冷凍大豆を使っての枝豆料理を調べる活動では、実際に夏休みに枝豆料理を作ったことでより興味をもって取り組めた。

・豆腐やきなこ、味噌などの加工品も大豆からできていることを学び、実際に作って大豆をおいしく食べる工夫を実感することができた。

・枝豆料理や大豆の加工品作りなどの体験活動を通して大豆を食べていこうという気持ちを高めると共に他の人にも知らせたいという気持ちをもつことができた。

4 課題

・大豆の豆落としの時期と学校行事が重なり、子ども達の意識が薄れる時があったので、総合の学習をする時期を集中してとるなどして、意識が薄れないようにすると良い。

・大豆に素晴らしさを全校や地域に知らせる活動が時間が足りず、十分行えなかった。



アグリパークで豆腐作り



唐箕を使った豆落とし



味噌作り



大豆の栄養の出前授業

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	白根小学校	学年	第5学年（70人）			
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	12 つくる責任 つかう責任			
単元名	「おいしいしろね！ しろねの『食』探検隊 ～『食』について考えよう（70時間）」					
ねらい	南区白根の食料生産や農産物の特色に気づき、人、もの、ことにかかわる探求的な学習活動を通して、今後の地域や新潟市のために自分ができることや協働して取り組むべきことを考え、実行できるようにする。					
評価規準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市南区は農業が盛んで、様々な人たちが関わっていることを理解している。 ・インタビューや質問などによる調査を目的や場面に応じた方法で実施している。 ・自分の地域の米作りのために自分で考えて行動することは、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題の解決につながることに気付いている。 <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業について関心をもち、課題をつくり、解決の見通しをもっている。 ・課題の解決に必要な情報を、収集している。 ・課題解決に向けて、収集した情報を整理・分析している。 ・相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け、主体的に探究活動に取り組んでいる。 ・他者とよりよく関わりながら、協働して学び合っている。 ・地域との関わりの中で、自分にできることを見付けようとしている。 					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	<ul style="list-style-type: none"> ・南区白根の農業に関することについて情報を集める。 ・南区（白根）の米作りについての話 ・田植え体験をする。 <p>(10時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南区白根の食に関する課題について情報を集める。 ・南区白根の農業について考え、課題を設定する。 <p>(10時間)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・稲の成長の様子を見学し、手入れをする。 <p>(10時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・稲刈り体験をする。 ・農業の現実をとらえ、取り組みたいことを挙げる。 <p>(10時間)</p>	
	ボランティアの情報提供					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業を行っている農家や農業関連工場に見学に行く。 ・米粉を使った調理実習をする。 <p>(10時間)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・収穫した米を使って、調理実習を行う。 ・学校田でとれた米を製粉した米粉を観察し米粉を使った料理を実践する。 <p>(10時間)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・南区白根の今後の農業や胡淵の活用法について、自分の考えをまとめる。 <p>(10時間)</p>	
	交通費の助成	交通費の助成				学習成果の発信
	アグリセンターバス代 75,160円 (支援額 60,000円)	アグリパークバス代 75,160円 (支援額 60,000円)				



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告

学校名 白根小学校 5学年

1 本単元作成のポイント、留意点等

おいしいしろね！白根の「食」探検隊

- ・3・4学年社会科の学習から、児童は「南区には広大な田や畑があり、農業が盛んである」を学んでいる。田んぼで稲作をすることは分かったが、ではどのようにして稲作が行われるのか。稲作については学校田で田植え・稲の観察・稲刈りを行い、米の生産プロセスを調べることとした。
- ・社会科と連携して米以外の作物についても、どのようにして生産されているのかを調べ、そこから見えてくる白根の農業の特徴や課題を見出し、解決方法を探ることとした。
- ・児童自身が農業をどのようにとらえているかを明確にし、そこから見出した問題点や課題と向き合っ、持続可能な農業のあり方を考えることとした。
- ・近年減少している米の消費を促進させるために、米の利用法や調理法を調べ実践することで、改めて国内で自給できる米の価値について考えられるようにした。
- ・米の利用法の一例として米粉に着目し、アグリパークで小麦粉と米粉を比較した調理自習を行ったり、学校田で収穫した米の一部を米粉にしてもらって観察したりした。

2 主な協力団体・協力者等

- ・JA新潟かがやき白根支店 阿達新太郎様
- ・JA新潟かがやき白根北アグリセンター 尾竹勝則様
- ・新潟市アグリパーク様
- ・野沢久人様（学校田所有者）
- ・土田様（きゅうりハウス所有者）
- ・地域ボランティアの皆様（学校田の田植え稲刈り）

3 成果

- ・「農業は年を取ってからするもの」「自分は農業に興味はない」ととらえていた児童が多くいたが、農業における機械化やスマートフォンを用いたハウス管理の実際を見学し、自分たちの世代で取り組めることを考える姿が多くみられた。

（以下児童の学習の振り返り）

- ・地産地消は自分の地域でとれたものだから、より安心して安全に食べられる。もっとしていきといい。
- ・きゅうりハウスは気温・湿度が管理出来て理想の気候をつくり出すことができるそれをスマートフォンで管理することができるからたくさんのメリットがある。
- ・米粉ができるのなら、小麦粉の代わりに米粉を使った加工品もできると思った。日本はコメの生産が豊富だから、米粉をもっと使えば小麦粉の輸入に頼らなくてもいいのではと思った。

- ・自分が考える米の良さとは、みんなが美味しく食べられて笑顔になれるところだと思う。私はお米が大好きだ。



きゅうりハウス見学



枝豆選果場見学



アグリパーク体験活動



米粉を使った調理

4 課題

- ・アグリパークでの実習後に米粉の製粉機が導入されたと聞き、わがままを聞いていただいて学校田で収穫した米を米粉に製粉していただいた。ありがたかった。来年度は実習時に米を持ちこめると伺った。次年度の5学年に活用できるよう引き継ぐ。

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	升瀧小学校	学年	第4学年（10人）		
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを		
単元名	農業を中心に地域を元気にする ～イチジクで地域の活性化に挑戦する（59時間）				
ねらい	地域のイチジク栽培について調べたり体験したりする活動を通して、地域の栽培農家の方々の思いに気づき、地域の誇りをもって今後の地域や新潟市のために自分ができることや協働して取り組むべきことを考え、実行できるようにする。				
評価規準	<p>【知識・技能】・升瀧地区のイチジク栽培は、地域の農家の思いによって継続できていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査活動を目的や対象に応じて実施することができる。 ・地域の特産品を作り出すことは、地域創生及び持続可能な社会を実現するために解決すべき課題の解決につながることに気付いている。 <p>【思・判・表】・イチジク栽培や販売について、自分なりの課題を設定するとともに、解決に必要な方法を明確にしなが計画を立てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イチジク栽培や販売について、現状や問題点を理解するために必要な情報を目的に応じた方法を選びながら収集している。 ・イチジクが地域の誇りになるために、加工方法や広報活動を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な活動を決定している。 ・今後の地域や新潟市のためにできることについて、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・升瀧地区のイチジクを広めたいという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる意見や考えを活かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 ・自分と地域の農家、飲食店とのつながりに気づき、地域の活動に参加するとともに、地域のためにできることを考え行動している。 				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> ・JAの方から、升瀧地区のイチジク栽培の現状について説明を聞く。 ・升瀧のイチジク農家を訪問し、イチジクの生育過程を観察する。 特徴、栄養、歴史、産地などについて調べる。 <p style="text-align: right;">（6時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イチジクの生長を観察する。 ・情報発信の方法を考える。 ・イチジク団地を新設する農家から、イチジクの可能性について聞き、地域農業の未来について考える。 ・JAの方から「越の雫」について話を聞く。 <p style="text-align: right;">（15時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農家へ訪問し、誘引作業を行う。 ・升瀧のイチジクのイメージキャラクターやPRするためのポスターづくりを行う。 ・ポスター掲示の効果を調査する。 ・果物の加工について調べる。 <p style="text-align: right;">（7時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イチジクの生長を観察する。 ・販売会に向け、キャラクターや調べてきたことを生かしてポスターを作る。 ・販路（アグリパーク、いくとぴあ、いっぺこ〜）を検討する。 ・夏果の収穫と実食をする。 <p style="text-align: right;">（9時間）</p>		
専門家の情報提供	専門家講師の派遣	専門家講師の派遣	専門家講師の派遣	専門家講師の派遣	
イチジク農家	イチジク農家 7600円	イチジク農家 7600円	イチジク農家 7600円		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスとなる可能性のある規格外のイチジクや保存が難しいイチジクについて、SDGsの観点から活用するための方法を考える。 ・イチジクと同様に大切に育てられた果物や野菜の一部が廃棄されていることを知り、食品ロスに対する問題意識を高める。 ・イチジクジャム、イチジクゼラートの作り方を新潟県農業大学校から学び、実際につくる。 ・イチジクの魅力をより多くの人に知ってもらうために販売会を行う。 <p style="text-align: right;">（10時間）</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・升瀧のイチジクをもとに、地域の課題（人口減少）に対して自分たちができることを考える。 ・考えたことを区長に提案したり、交流したりする。 ・住み続けられる街づくりのためにできることを考え、実行する。 <p style="text-align: right;">（12時間）</p>		
専門家の情報提供	交通費の助成	交通費の助成	学習成果の発信		
農業大学校	タクシー代 13,850円（農業大学校） （支援額 13,850円）	バス代 28,600円（販売） （支援額 28,600円）	西蒲区長、食と花の推進課		



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告

学校名 升潟小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・これまで活動ありきの教師主導的な学びとなっていたが、学習計画に探求のプロセスを位置付け子ども主体の学びとなるよう改善した。
- ・ぶつ切りの活動となっていた「升潟太鼓」「いちじくの学習」を「升潟の魅力」という視点からつながりが生まれるよう改善した。
- ・実社会や実生活の中から問いを見いだせるよう、地域のいちじく農家を訪問したり、JA から講師を招いたりして、実際に見たり聞いたりする活動を複数回位置付けた。
- ・農業大学校で加工体験を行い、生食に抵抗のある児童も学習材に意欲をもてるよう配慮した。
- ・地域の魅力を発信するための活動として、直売所（西区：いっぺこ〜と）での販売活動を行った。
- ・農産物の生産について、体験活動を重ねることで、生産者の多くの苦労があって作物が生産されていることを理解させるようにした。その後、食品ロスの問題と出会わせ SDGs の視点を採り入れた。
- ・地域の課題（人口減少）を解決する手立てのヒントとして SDGs の視点を採り入れた。

2 主な協力団体・協力者等

- ・地域のいちじく農家様（小林博水様、石川悦雄様、笹川隆介様）
- ・JA 新潟かがやきファーマーズ・マーケットいっぺこ〜と様
- ・JA 新潟かがやき 山本崇様
- ・新潟県農業大学校様
- ・新潟市西蒲区区长 堀峰一様



講師による講演

3 成果

- ・児童に升潟の魅力について問うと、学習前（四月）には自信をもって答えられる児童が一人もいなかったが、学習後（二月）には多くの児童が答えることができるようになるなど、地域の良さを発見する機会となった。
- ・年度初めは SDGs が自分たちの生活に関係のあることだと思う児童が 22%だったが、年度末はすべての児童が SDGs に関心をもち、生活の中に関係していると回答をした。
- ・SDGs に関わる諸問題を自分事としてとらえられるようになった。また、SDGs に関わって自分たちにできること（地域の産品を広める、3R や食品ロスを意識する。など）を言葉にできるようになった。
- ・本単元を取り組むことで、地域愛を育むことができた。<児童の振り返り>
 - ・最初は「升潟は田舎で嫌だな」と思っていたけれど、今では「ずっと升潟にいたい」「升潟が大好き」という気持ちになりました。
 - ・これからも升潟のことを元気にするためにできることを考えたいし、守っていききたいとも思った。



農家での体験活動



農業大学校での加工体験



直売所での販売活動



区長への提言

4 課題

- ・イチジクの栽培では、農家の畑に出向き、作業の手伝いを行ったが、農作物を育てる難しさを実感させることができなかった。イチジクの作業とともに、農産物を育てる体験を設定することで、食品ロスへの関心の深まりを期待できる。
- ・児童の情報発信をする回数が少なかった。児童が主体となって、SNS 等を活用し日常的な発信活動を行うことで、より自分事として学習に取り組むことが期待できる。
- ・レシピの開発までを行うことができなかった。よりイチジクの魅力の発見につなげるために、レシピ開発を視野に入れて単元を計画できるとよい。

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	松浜中学校		学年	第3学年（114人）		
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	12 つくる責任、つかう責任		
単元名	伝統的な食文化の継承と地域食材からトレンドを生み出そう！（53時間）					
ねらい	①伝統的な食文化や地域食材への関心を持つ。②今ある現状に目を向け、特徴を知り、課題から未来へつながる持続可能なトレンドを考案する。③地域の企業や人々と連携し、ともに考え、地域の活性化を図る。					
評価規準	<p>【知識・技能】・伝統的な食文化や地域食材について関心を持ち、特徴や課題を理解している。 ・継承していくためには、地元企業や人々との協力が必要であり、それが将来的に地域の活性化に繋がるということを理解している。</p> <p>【思・判・表】・講話を通して、伝統的な食文化や地域食材の良さに気付くことができる。 ・食文化や食材について、未来へ継承していくためのアイデアを考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・地域の企業や人々との関わりの中で、自分たちができることを考えようとしている。 ・課題解決に向け、他にはない地域の伝統的な食文化や地域食材の良さに気付き、追求学習に取り組もうとしている。</p>					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	<p><u>修学旅行現地取材</u> 「食」に焦点を絞り、食事に使用される食材やお土産品の特徴、また販売方法等、京都の「食」文化について現地取材する。（10時間）</p>	<p><u>修学旅行まとめ</u> 京都と新潟の食材やお土産品等を比較しながら、レポート欄に写真付きでまとめる。（10時間）</p>	<p><u>CS会議参加</u> ※生徒会本部役員参加 伝統的な食文化や地域食材の現状を話し合い、強みや課題を洗い出すことを通して現状を把握する。（5時間）</p>		<p><u>キーワード作り</u> 講話の題材作りとして、「食」に関して気づいたこと等を持ち寄り、グルーピングし、キーワードを作成する。（3時間）</p>	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		<p><u>大学教授による講話</u> キーワードをもとに、SDGsを踏まえた地域の「食」に関する講話を通して、地域の特徴や現状を知り、伝統的な食文化や地域食材の良さに気付く。（5時間）</p>	<p><u>一人一追究学習</u> 北区や松浜地区の「食」を中心に、講話を通して得られた知識と、これまでの学習内容を整理・分析しながら、食文化を継承していくための持続可能なアイデアを考える。（15時間）</p>		<p><u>追究学習発表</u> 他に誇れる伝統的な食文化を未来へ継承していくための持続可能なアイデアを発表したり、大学教授からのフィードバックを参考にしたりして、自分たちができることを考える。（5時間）</p>	
		<p>専門家講師の派遣 報償費 大学教授 14,600円</p>			<p>学習成果の発表</p>	



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告

学校名 松浜中学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

(1) 単元の再構成 (3年間を通じた関連付けを意識して)

単元間の関連付けが上手くいかない単元もあったため、一昨年度から、3年間を通して学習内容が関連付けられるような単元を、前後期に1つずつ配置するように再構成している。(現3年生は再構成途中での学習実施)

【1年時】①地元「松浜を知る・防災」で巡検と俳句作り、紙面発表、防災学習

②「職業①」で職業調べや職業講話

【2年時】①「職業②」でマナー講座や職場体験学習

②「SDGs」で基本的な知識を身に付け、調べ学習のポスター作製

③「修学旅行」の準備活動と調べ学習

【3年時】①「修学旅行」の実施とまとめレポート作製、文化祭紙面発表

(2) 「食」をテーマとした3つの活動

①関西修学旅行での現地協力

・食事場所での伝統料理や地元食材を生かした料理説明の設定

②生徒会本部役員によるCS会議参加

・地元の伝統的な食文化や地域食材の現状把握と強みや課題の洗い出し

③新潟食料農業大学教授による講話

・依頼する演題を生徒の検討によって決定

2 主な協力団体・協力者等

(1) 新潟食料農業大学教授及び、松浜中学校コミュニティ・スクール教育活動

アドバイザー 高力 美由紀 様

(2) なら 和み館様

(3) ホテル本能寺様

(4) 近畿日本ツーリスト新潟支店様

(5) 松浜中学校コミュニティ・スクール構成員様

3 成果

(1) 修学旅行の食事場所で、食材や料理の説明をいただいたり、特製ランチマットを制作いただいたりしたことで、生徒が単元のねらいに迫ることができた。

(2) 地域教育コーディネーターや大学教授による講話を通して、自分たちが住む地域の特徴や現状と他に誇れる食文化や食材の良さを再発見できた。

(3) (1)(2)を通して、新潟県や新潟市も含めた視野をもって地元の課題に着目し、自分なりの課題を設定し、追究活動ができた。

(以下、課題例)

・今後地域がより活性化していくためのアイデアや他に誇れる文化継承の提案

・良さや伝統を継承していこうとする土台作り



追究学習の代表者発表会



特製ランチマット



ホテルでの食材説明会



演題のキーワード出し



教育コーディネーターによる講話



高力先生の講話

4 課題

(1) 実施にあたり、前年度からの十分な準備期間が必要

(2) 1つ1つの活動が終わるごとに、生徒間や職員間、または生徒と職員間で振り返りを充実させる、より効率的な手立て

(3) 協力いただく関係者や関係機関との打ち合わせ機会の確保

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	新津第一中学校	学年	第1・2・3学年(600名)		
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	12 持続可能な消費と生産		
単元名	稲作体験活動(38時間)				
ねらい	地域の方々とともに育苗や田植え、稲刈り、脱穀、米配給といった稲作の一連の流れを体験することを通して、地域の米作りに関心を持ち、今後の地域や新潟市の課題を考え自ら解決する力を身につける。				
評価規準	<p>【知識・技能】・新潟市は米作りが盛んであり、今後も私たちの食生活を支える大切なものであることを理解している。</p> <p>【思・判・表】・地域や新潟市の米作りについての現状をもとに課題を設定し、解決の見通しをもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に必要な情報を整理している。 ・活動の内容をわかりやすく表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】・活動の中で自ら考えて動き、仲間と協働して学び合おうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や新潟市の一員として、自分の役割を考えようとしている。 				
4月	5月	6月	7月	8月	9月
<p>【全学年】地域の農業や園芸について考え、課題を設定する。</p> <p>【ライスプロジェクト委員会】種まき、育苗を日常活動として行う。</p> <p>【全学年】各学級にて育苗。見守り。</p> <p>(6時間)</p>		<p>【全学年】田植え(手作業)</p> <p>【全学年】田植え後、レポートを作成。掲示。</p> <p>【水田管理者】田植え後の水田管理</p> <p>【ライスプロジェクト委員会】稲の成長観察、経過報告。</p> <p>(10時間)</p>		<p>【ライスプロジェクト委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中に新米に合う料理やおにぎりの具材のレシピを募集。(家庭科との連携も検討) ・はさぎ掛けの講習を受ける。 	
10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>【ライスプロジェクト委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中に新米に合う料理やおにぎりの具材のレシピを募集。(家庭科との連携も検討) ・はさぎ掛けの講習を受ける。 		<p>【全学年】稲刈り終了後にレポート作成。</p> <p>【1学年】地域探求学習 地域の魅力や課題について考え、発表。(10時間)</p> <p>収穫祭 (2時間)</p> <p>【全学年】自分たちで育てた米を味わう。(家庭配布)</p> <p>【全学年】学校田管理者より評価と報告をいただく。</p>		<p>○収穫米を使用したお弁当作成と販売(コミュニティスクール)</p> <p>○干し蕪の提供(塞ノ神)</p> <p>(10時間)</p>	



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告

学校名 新津第一中学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- 学校田の準備や活動の指導は、地域住民の方や JA 新潟かがやき等のご協力を得られるようにした。
- 学校の常任委員会として「ライスプロジェクト委員会」がある。この委員会を中心に、育苗→田植え→稲刈り→脱穀→米配給までを、生徒主体で行うことができるようにした。
- 今年度は収穫した米を全校生徒に配布しただけでなく、地域の企業と連携してオリジナル弁当を制作・販売するところまで活動を進められるようにした。
- 上記のオリジナル弁当は「おにぎりの具アンケート」「弁当デザイン」等を生徒から募集するようにした。また、弁当の包装・販売に生徒ボランティアが携われるようにした。

2 主な協力団体・協力者等

J A 新潟かがやき様 古田農家組合様 スロウハウス様

3 成果

- 全校稲作活動は、生徒主体で行うことができた。
- コロナ禍で中断していた「一中米弁当」を復活させ、企画、販売することができた。



生徒による田植え



生徒による稲刈り



脱穀



収穫祭（米の配布）

4 課題

- 刈り取った稲をかける単管の本数を増やす。
- 事前学習、事後学習（ふりかえり）の充実
- 稲刈り・脱穀の時間配分。（特に稲刈りは各学年によって作業のスピードが毎年異なり、生徒の作業終了後は職員が行っていた年もあったため。）
- 学校田管理者からの評価を、次年度の稲作にどのように活かすか、ライスプロジェクト委員会で検討が必要。
- 収穫した米の扱いについて。生徒への配布、職員への配布、福祉施設への配布、一中米弁当の他に、余った米をどのようにするか検討が必要である。



稲刈り（大変です）



一中米弁当の販売

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	小新中学校	学年	第2学年（101人）
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	8. 働きがいも経済成長も
単元名	前期：小新ハローワーク（私たちが、よりよく生きるために取り組んでいきたい仕事） 後期：小新ジャーニー（新潟の過去・現在を知り、未来を語り合おう）（54時間）		
ねらい	職業（キャリア）や地域（新潟）について、ロボットやテクノロジーの視点を加えながら探究することで未来を見通し、持続可能な生き方を考える。		
評価規準	【知識・技能】 探究的な学習の過程において、職業や地域に関する課題解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。 【思・判・表】 職業や地域について、実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いの良さを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。		

4月	5月	6月	7月	8月	9月
	<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px; text-align: center;"> 生き方講演会 「起業」について (4時間) </div>	<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px; text-align: center;"> 地元経営者による講演 職業体験 </div>	<div style="border: 2px dashed blue; padding: 5px; text-align: center;"> 職業体験 個人探究「就職に先駆け、身に付けておくべき知識とは!？」 </div>	<div style="border: 2px dashed blue; padding: 5px; text-align: center;"> 夏休みの探究成果の修正・提出 探究の価値づけ（はがき新聞） 自己成長力アンケート </div>	
		<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px; text-align: center;"> 水耕栽培（技術科）（10時間） </div>			

10月	11月	12月	1月	2月	3月
<div style="border: 2px dashed green; padding: 5px;"> 道徳の授業を通して、新潟市の特徴や良さを知り、地域についての理解を深める。 (10時間) </div>	<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> 講演会を通して、新潟を支える農業や農業とテクノロジーについて考える。 (10時間) </div>	<div style="border: 2px dashed green; padding: 5px;"> 修学旅行（三条、燕、長岡）において、スマート農業の施設や水耕栽培施設を見学し、知見を広げる。 </div>	<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> 家族に披露した探究成果を友達にも伝えることを通して、新潟のこれからについて考える。 (10時間) </div>	<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> 「Koshin 若者会議 2024」～新潟の未来を語り合おう～ 「小新ポジウム」において、地域に向けて学習の成果を発信する。(5時間) </div>	
<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px; text-align: center;"> 弁当作り </div>	<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px; text-align: center;"> 調理実習 </div>	<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> 未来の新潟「食・農」物語の執筆（5時間） </div>			

専門家講師の派遣

報償費

有限会社米八 7,600円

株式会社 総合フードサービス 7,600円

学習成果の発信

西区長・食と花の推進課



SDGsで3つの視点を

□	：未来も	□	：まわりも	□	：みんなも
---	------	---	-------	---	-------

実施報告

学校名 小新中学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

(1) 従来の職場訪問にSDGs学習の視点を追加する。

職業講話や職場体験では「働くことの意味」を探るとともに、各職場で行われているSDGs関連の取組を聞き取る。さらに、その結果を友達同士で共有する。

(2) 食と農を、総合的な学習の時間のみならず、教科横断的に学ぶ。

技術科の水耕栽培実習、家庭科の調理実習、ランチ給食の場面でも、食や農に関する理解を深める。そのことで、既存の学習の価値や意味を見直す。

(3) 個別最適な学びの充実を図る。

生徒の興味や関心に応じて取り上げる農作物を設定させる。その農作物の課題や解決策を考え、その提案は「未来の新潟『食・農』物語」としてまとめる。

(4) 様々な人との協働的な学びの充実を図る。

講演会を2回実施し、12月には植物工場見学を行う。創作した物語は保護者の前でも発表する。課題解決のアイデアを持ち寄り、小新若者会議を開催する。食と花の推進課とシンポジウムを共同開催し、行政の方からも意味づけを行ってもらう。

これまでも当校の2学年では、前期に職業、後期に地域を探究してきた。本単元作成に関わり、小新中学校における総合的な学習の時間の系統性を維持すること、これまで培ってきた学習のノウハウを活用し、生徒や教職員の負担にならないこと、本実践に関連する内容を扱う他教科と教科横断を図り、学習効果を高めることに留意する。



講演：総合フードサービス

2 主な協力団体・協力者等

株式会社 総合フードサービス様 錦鯉の里様
エンカレッジファーム株式会社様
有限会社 米八様 株式会社 プラントフォーム様
新潟市西区長様
新潟市農林水産部食と花の推進課様

3 成果

- ・ 有限会社 米八より講師をお招きして、南区で実際に行われているスマート農業を説明していただいた。写真や動画を用いて、スマート農業のメリット・デメリットを分かりやすく説明していただいた。
- ・ 株式会社 総合フードサービスより講師をお招きして講演をしていただいた。総合フードサービスは、当校にスクールランチを納めている業者で、食材の産地やランチの残食状況も含め、生徒たちに直結した内容で講演をしていただいた。
- ・ 修学旅行では、エンカレッジファーム株式会社・錦鯉の里・株式会社プラントフォームを見学した。水耕栽培やチョウザメの養殖など、先端技術を活用した生産システムを直接、見学し、生産者からも直接お話を聞くことができた。
- ・ 冬休みに執筆した「未来の新潟『食・農』物語」をもとに若者会議を開催した。小グループでアイデアを交流させ、興味・関心のある農作物の発展を、柔軟な発想で提案した。
- ・ 食と農のわくわく SDGs 学習の集大成としてシンポジウムを開催した。シンポジウムには、新潟市西区長や新潟市農林水産部食と花の推進課職員をお招きして、中学校の取組を聞いていただくとともに、激励の言葉をいただいた。



講演：有限会社 米八



小新若者会議（2月）



小新ポジウム（2月）

4 課題

今年度、モデル校ということもあり、若者会議やシンポジウムなど実験的な取組を積極的に行った。この学習を持続的に実施・発展させることが今後の課題である。使用した教材や実施計画を次年度の担当職員に着実に引き継ぐ、今年のノウハウを活用し、教職員の負担感を軽減することが手立てとして考えられる。



修学旅行(12月)での工場見学
エンカレッジファーム

令和5年度「食と農のわくわくSDGs学習」実施計画

学校名	明鏡高等学校	学年	夜間部1年次(14人)、2年次・3年次(23人)
教科等	総合的な探究の時間(キャリア教育)	関連SDGs	11住み続けられるまちづくりを
単元名	夜間部1年次:農業の視点からSDGsを考えよう(15時間) 夜間部2年次・3年次:食と農業に関する産業との交流から考えよう(10時間)		
ねらい	新潟市の食や農業について調べ、体験することを通して、SDGsの視点を持ち、社会を構成する一員として自分ができることを実践していく。		
評価規準	【知識・技能】・SDGsに関わる新潟市の取組について理解している。(1年次) ・農業に関わる産業について理解している。(2・3年次) 【思・判・表】・新潟市の農業を習熟とした取組について自分の考えを表している。(1年次) ・食と農業に関わる産業について課題を持ち、解決の見通しをもっている。(2・3年次) 【主体的に学習に取り組む態度】・SDGsの視点から探究活動に進んで取り組もうとしている。 ・課題解決に向け探究活動に進んで取り組もうとしている。(2・3年次)		

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年次	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 地球環境問題の視点から課題をもつ (1時間) 	<ul style="list-style-type: none"> 調査活動 SDGs未来都市新潟の田園都市を活かした取組を調べる。 (2時間) 	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習 農業はどんな風に私たちに関わっているのか考える。 (2時間) 	<ul style="list-style-type: none"> アグリパーク体験活動 循環型農業の役割と可能性について 		<ul style="list-style-type: none"> まとめと振り返り (1時間) 	<ul style="list-style-type: none"> 課題再設定 人との関わりで大切なことをSDGsの視点から考える (1時間) 	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動 日常生活の中で行動する。 (2時間) 	<ul style="list-style-type: none"> まとめ (1時間) 				
交通費の補助 アグリパーク バス代30,000円													

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2・3年次			<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 食と農業に関わる産業について調べる。 (2時間) 	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験。 食と農業に関わる産業を体験する。 (4時間) 		<ul style="list-style-type: none"> 事後学習 食と農業に関わる産業について振り返る。 (1時間) 	<ul style="list-style-type: none"> まとめI 食と農業に関する体験から自分の考えを深める。 (1時間) 	<ul style="list-style-type: none"> まとめII 自分の考えをまとめる (1時間) 				



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告書

学校名 新潟市立明鏡高等学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・アグリパークでの実体験を中核とした単元の構築
- ・食と花の推進課職員との情報交換を通し、授業担当職員の視点と理解を深め、SDGsの視点を取り入れた授業を構想
- ・日常生活の視点でSDGsの取組を考え実践を試みる。

2 主な協力団体・協力者等

- ・SDGs 資料提供：新潟市農林水産部 食と花の推進課 様
- ・SDGs 指導：新潟市農林水産部 食と花の推進課 様
- ・体験活動：新潟市アグリパーク 様

3 成果

- ・新潟市総合計画2030について学び、理解することができた。新潟市が目指している姿を知ることができたことは新しい発見だった。
- ・個別の調べ学習では中々気づくことのできないこと（新潟市では12次産業化が進められていること）を知ることができた。

- ・アグリパークでは専門的な立場の方が対応してくださり、説明や実習で生徒が引きつけられ、学ぶ意欲の高まりを感じることができた。
- ・日常生活ではできない栽培や飼育の実体験により、SDGsの視点や考え方に広がりをもたせることができた。

アグリパーク講師による説明



アグリパーク講師の実技指導



AS指導主事による講演



野菜の収穫体験



生き物とのふれ合い体験



身近な生活を以下のように見直すことができた

- ・フードロスの視点から食生活の見直しを進める
- ・食品を購入する時は産地を意識する
- ・食に関わることを職業選択の1つとして考える
- ・電気や水の無駄遣いをしない
- ・ごみの分別を徹底し、ゴミを減らす
- ・再生紙を積極的に活用する

4 課題

- ・SDGsの視点から生徒の学びを深めるための教職員の専門性の向上と外部機関との効果的な連携
- ・探究的な学びを充実させるための単元の配置と時間の確保
- ・SDGsを生徒の身近な生活場面や視点に落とししていくため資料や指導方法の工夫

SDGs 学習資料



令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	日本文理高等学校		学年	第1学年		
教科等	総合的な探究の時間		関連 SDGs	11 住み続けられるまちづくりを		
単元名	食・農に関する調査活動や体験活動を通して、食の大切さを知り、行動したり発信したりしよう！(53 時間)					
ねらい	体験的な学習を通して新潟市の食・農業に関する現状の把握と課題の発見を行い、課題解決のために協働的・主体的に取り組み、実行できるようにする。					
評価規準	<p>【知識・技能】・ミッションの意義を意識して、問いや仮説を明確に設定し、考察できる</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分野の現場を訪れ、ゲストから出されたミッションをクリアするだけでなく、そこから次の課題を考えその課題解決のための分析を行うことができる。 <p>【思・判・表】・ミッションをクリアするための適切な調査と資料収集を計画し実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学んだアポイントメントの手法をいかし、適切な訪問を行い、必要な情報収集を行うことができる。 発表において研究内容の要点をとらえ、聴き手に適切に対応している。また、必要な要素を取捨選択し、研究成果を的確に説明している <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の意見を受け入れ、協働的に調査を行うとともに、あらたに出てきた課題に対して再度全員で考察し、グループの活動に貢献しようとしている。 与えられたミッションを考えるだけでなく、自分の興味・関心に基づいた新たな課題を設定し、解決に向けて動いている。 					
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	<ul style="list-style-type: none"> グループ分け・班編成 「探究学習とは？」 探究学習の概要説明を受け、探究学習のイメージを持つ (2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ミッションを発表し、概要説明、評価規準、年間計画に関する説明を聞き、年間計画を立てる。 新潟市における食や農の実態や世界的な食糧事情についての講義を受け、自分たちにできることを考える。(3 時間) 		<div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> 食・農に関する何かしらの体験をすることにより、農業の難しさ・重要性を知る。 例：プランターで育てた農作物の収穫競争→収穫量の差はなぜ生まれたのか考察→12月の体験に向けてイメージを再構築する。(14 時間) </div>		<div style="border: 2px dashed blue; padding: 5px;"> ・まとめと振り返り(1) (5 時間) </div>
	専門家講師の派遣 食と花の推進課職員			交通費の助成 白根グレープガーデン バス代 30,000 円		
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けた行動を再設定・計画を立てる (6 時間)	<div style="border: 2px dashed green; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 再構築した行動計画に基づき、課題解決のためのアクションを起こす 現地に赴いてインタビューをしたり、商品を販売したりして、食・農の重要性を再認識する。 政策提言や模擬販売を通して、食の大切さを知ると同時に、これからの新潟市の農業の未来を考える。(19 時間) </div>		<div style="border: 2px dashed blue; padding: 5px;"> ・まとめと振り返り(2) (4 時間) </div>		
	専門家講師の派遣 新潟食料農業大学 高力教授 (大学の出張講義により無償)		専門家講師の派遣 報償費 新潟大学 長谷川教授 14,600 円			



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告書

学校名 日本文理高等学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・生徒自身の主体的な活動になるよう、テーマの決定や調査対象及び発信の方法等については各グループに一任し、それに対して助言やサポートを行うようにした。
- ・新潟市において先進的な取り組みをしている農家等を NPO 法人みらいず works や新潟市食と花の推進課に紹介してもらい、新潟市の食・農分野における課題解決に取り組む現場を訪問できるようにした。
- ・新潟市を「住み続けられるまち」にするために、食・農に関する調査活動や体験活動を通して、食の大切さを知り、行動したり発信したりできるようにした。
- ・仲間や地域の方々、専門家等との協働的な学習の機会を増やし、共に学ぶことの楽しさを実感できるようにした。

2 主な協力団体・協力者等

- ・NPO 法人みらいず works 様
- ・新潟食料農業大学教授 高力 美由紀 様
- ・新潟大学自然科学系教授 アジア連携研究センター専任教員 長谷川 英夫 様
- ・白根グレープガーデン 様 など

3 成果

- ・大学教授など専門的な講師を招聘できたため、スマート農業や6次産業化の実際と課題について詳しく学ぶことができ、新潟市においてもどの程度可能なものなのかを考察することができた。
- ・交通費の助成により、農園や企業など様々な訪問先に行くことができたため、食・農分野には複数の人、企業が重層的に絡んでいることや、時代とともに農業も日々変化していることについて現地で直接学ぶことができた。



訪問先での聴き取り

- ・農業体験を通して、仮説を立て検証するという探究学習のサイクルを経験することができた。また、農家の方から直接話を聞くことで、農業に対する強い思いを実感することができた。
- ・自ら調べた内容については、校内でのポスター掲示などを通して、食や農以外について調べていた生徒たちにも発信するなど、SDGs の考えを広めようとする生徒が多くいた。また、調理師専門学校と連携し、自作の農作物を使ったレシピの考案にも取り組めた生徒もいた。
- ・年間を通じて、自身の生活と食・農が密接な関係にあることを学んだことにより、食の大切さを知り、自分自身の生活を見つめなおす生徒が多くいた。また、自分たちの住んでいる新潟市が農業の盛んな街であることについて理解を深めることができた。
- ・本事業に参加したことにより、テーマごとに適切な連携先を紹介することができ、生徒のニーズに対応することができた。



校舎内のポスター掲示



自作の農作物



レシピ考案

4 課題

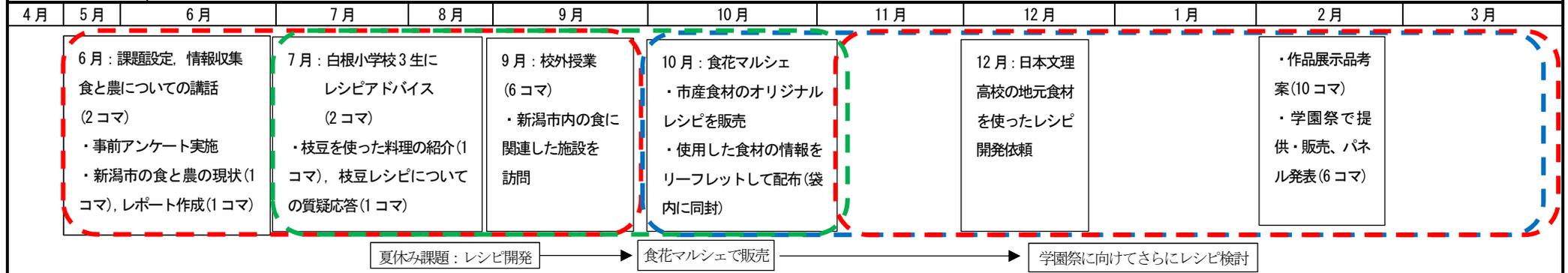
- ・時間割の関係で、テーマ設定までの時間が不足したため、自分事としての捉えが弱く場当たりのアクションになった生徒がいた。テーマ設定は急がずに、興味あることを調べさせてから絞っていくようにしたい。また、テーマがグループごとに多岐にわたり、コントロールが難しかった。共通テーマを設定し、その中で課題を見つけ取り組ませる方法が望ましいと考える。
- ・整理・分析後、課題の再考をすることができず、次の発見につながる生徒もいたため、学習活動の見通しをしっかりとたせる必要である。また、他グループとの交流を行わせることで視点を広げることも取り入れていきたい。



教員研修会

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	シェフパティシエ専門学校	学年	第2学年（調理製菓技術科・製菓製パン技術科）
教科等	フードビジネス、総合技術演習、食育、調理実習、製菓実習	関連 SDGs	11 住み続けられるまちづくり 12 つくる責任つかう責任
単元名	地域(新潟市、新潟県)の特産品を活用した商品開発をしよう(28コマ+α)		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市の特産品を料理や菓子、パンの材料に活用して、生産、消費に繋げる取り組みができる。 ・地産地消を意識して原材料の置換を経営的（経費的）な面から商品化をすることができる。 ・規格外の農産物を加工する仕組みを構築し、食品廃棄の減少に繋げる。 		
評価基準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市の農業の現状について理解している。 ・(新潟市の)食品流通の現状を理解している。 ・季節に応じた新潟市の農産物を活用した料理や菓子、パンを製造し、提供することができる。 ・新潟市の農産物について理解することは、持続可能な社会を形成するために必要な知識であることに気が付いている。 <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市の農産物について関心をもち、活用するイメージを持っている。 ・新潟市の農産物を活用することを目的として、必要な情報を収集し、蓄積・整理している。 ・食を通じて、新潟市が魅力ある街(政令市)であることを発信している。 ・商品開発(新潟市の農産物を活用したレシピ考案)ができている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市や地域の魅力に気づき、自分が調理や菓子、パン製造を通じてできることを考えている。 ・商品開発(レシピ考案、調理、製造)を周りの意見も聞き、取り入れながら作成している。 		



- ※ ① 各学科、スポットで授業を、年間での活動を、科目連携により実施することも目指して模索する。
 ② 「自分たちが、社会が良くなるために、少しでも取り組めることは何か？」を考え、行動できることを卒業後もできるようにする。
 ③ 他校での取り組みに協力できるように準備しておく(レシピ考案アドバイス、加工品つくりの出張授業など)
 ④ 学科の枠にこだわらず、分野(調理、製菓、パン)として、横断的に学習機会を設定する必要がある。

専門家講師の派遣	交通費の助成	学習成果の発信(レシピ開発、市産食材の発信)	学習成果の発信
食と花の推進課職員	施設訪問 バス代 60000円	食花マルシェ	シェパ祭(学園祭) 作品展示、パネル発表



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告書

学校名 シェフパティシエ専門学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

◆調理系の専門学校として考慮したポイント

- ①食の専門家として知識や技術に留まらない学習を計画した
 - ・生産や流通について学ぶ機会は指定のカリキュラム上ほとんどないため、本学習によって、食品がどのように作られ、どのように消費者の手元に来るのかについて学ぶことができるようにした
- ②新潟市(地元)について学ぶ機会とした
 - ・当校の学生は県内出身者がほとんどで、下越地域から通っている学生が5割程度であり、就職先も県内が中心であるため、新潟市で様々な農産物が生産されていることを学ばせ、地産地消の観点で、調理系学生の重要な学習になるようにした
- ③市産食材を使用したレシピ作成が学習のまとめとなるようにした
 - ・年間を通じて学んだことを学園祭で料理、ポスター作成によって発表
 - ・料理では市産食材の使用を課題としてレシピを作成
 - ・ポスターは年間のまとめとして、各学習の活動内容を発表

2 主な協力団体・協力者等

そら野テラス様、中央卸売市場様、カーブドッチ様、白根小学校様、日本文理高校様、食花センター様、新潟市食と花の推進課様

3 成果

表 年間の学習活動の内容

	<p>◆新潟市農業構想についての講話【まわりも】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食花推進課目黒様にご依頼し、行政の観点で新潟市の現状や課題、展望を学んだ
<p>オンラインのため 画像はなし</p>	<p>◆白根小学校3年生とのコラボ授業【みんなも】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生とオンラインで接続し、遠隔で授業を行った

	<p>◆校外授業【まわりも】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市内の食に関わる施設を訪問(中央卸売市場やそら野テラス、カーブドッチ、食花センターを訪問) ・一次産業から三次産業まで学ぶことができた
	<p>◆食花マルシェ【まわりも】【みんなも】【未来も】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期までの学習を通じて、夏季休暇の課題として市産食材を活用したレシピ検討を行った ・様々な市産食材について知ることができた
	<p>◆日本文理高校1年生とのコラボ授業【みんなも】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文理高校からの依頼(探求学習)で、ハツカダイコンと冷やご飯(余ったご飯)を利用したレシピ開発を行った
	<p>◆シェバ祭(学園祭)【まわりも】【みんなも】【未来も】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園祭における学習のまとめ・発表 ・中央区役所地域課長の大倉様、主事の鷺津様にご来校いただき、学習の内容を発表した

- ・年間を通して学習したことで、「いろいろな食材があることを知った」、「作成したレシピ全てに新潟の食材を使用した」などの学生からの感想を得ることができた
- ・計画外ではあったが、小学生や高校生と一緒にSDGsについて学ぶことができ、学習に広がりがあった

4 課題

- ①年度途中から学習を開始したため、わくわくSDGs学習を実施できた学科が限定された。次年度は可能な限り全学科で、学校としてわくわくSDGs学習に取り組むことを検討したい
- ②学習内容が二次産業や三次産業が中心だったため、包括的な学習となるよう、次年度の検討課題としたい



シェバ祭での学生考案レシピ

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	新潟国際情報大学		学年	第1～4学年（有志12人）									
教科等	SDGs食と農プロジェクト		関連SDGs	2 飢餓をゼロに 11 住み続けられるまちづくりを									
単元名（テーマ）	①生産性向上と持続性の両立に向けたスマート農業のあり方とその実践 —ロボット、AI、IoT 技術と農業— ②地域資源を活用した第6次産業の創出と経営戦略			（16時間）									
ねらい	地域社会のありかたを創造できる人材育成												
評価規準	※学生を主体とする授業外の自主的な活動であるため、評価規準は設定せずに行っている。												
4月		5月		6月		7月		8月		9月			
				・食と農のSDGs学習説明会の開催（2時間）				・参加者各自が自主的に事前学習を行う期間					
10月		11月		12月		1月		2月		3月			
講義編（4時間）10/7、14 ・新潟市の農業について 講師：須田夏実様（農林水産部食と花の推進課） ・6次産業化について 講師：新谷梨恵子様（農プロデュース リッツ） ・スマート農業の現状と課題について 講師：長谷川英夫様（新潟大学農学部） ・地域循環共生圏 講師：佐々木寛様（新潟国際情報大学）		フィールドワーク（6時間） ・高儀農場（11/4） 施設見学、6次産業化、農家レストラン ・エンカレッジファーム（11/11） 施設見学、スマート農業、6次産業化 ・ロイヤルヒルホルスタインズ（11/25） 牛舎・工房見学、6次産業化		ワークショップ12/2（2時間） ・プレ発表 ・意見交換会		成果発表会12/23（2時間） ・「Smatch～農家と企業のマッチング～」 ・農家を続けていくために ・意見交換会							
専門家講師の派遣 講師謝礼 新谷様 14600円		交通費の助成（タクシー代）・講師謝礼金 高儀農園 30000円・7600円 エンカレッジファーム 27300円・7600円 ロイヤルヒルホルスタインズ 27300円・7600円											



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告書

学校名 新潟国際情報大学

1 本単元作成のポイント、留意点等 ←（「大学として取り組む意義」として）

本学の基本理念の一つが「地域社会のありかたを創造できる人材育成」である。この点に鑑みると、新潟という地域の基幹産業である農業の将来は地域社会のあり方そのものであるとも言える。また、農業とは直接関係のない本学ではあるが、スマート農業、第6次産業といった分野は、実際には本学の教育内容とも極めて整合性が高く、今回の新潟市のプログラムとの連携によってこの分野に有為な人材を送り出せる可能性を有している。2～3年ほどこのプログラムを実施した後、後述するビジネスモデルに大学として取り組めるようなものになっていくことが期待される。

2 主な協力団体・協力者等

- ・新谷梨恵子 様（農プロデュース リッツ）
- ・長谷川英夫 様（新潟大学農学部）
- ・佐々木寛 様（新潟国際情報大学）
- ・（有）高儀農場 様
- ・（株）エンカレッジファーマーミング 様
- ・ロイヤルヒルホルスタインズ 様



高儀農場での視察

3 成果

* 講義

- ・6次産業がアイデア次第で事業を大きく展開できる分野であることに学生が気づいたこと。
- ・独学では難しいスマート農業の技術やその応用、課題について学べた点。

* 現地視察

- ・トマトやイチゴといった園芸農業分野でのスマート農業の最前線に立つ3つの農園を見学したうえで、責任者から技術面、経営面についての具体的な説明を聞いたことで、これまで漠然としていたスマート農業に対するイメージが明確になった点大きい。

- ・ロイヤルヒルホルスタインズの視察では、新潟市の近郊においてこのような酪農家が存在するというところにまず驚くとともに、そこから極めて洗練された乳製品がほぼ経営者の奥様一人の手によって生産されていることに大きな感銘を受けたと同時に、6次産業がアイデア次第であることを座学だけではなく現場において肌で感じた体験となった。



ロイヤルヒルホルスタインズの視察

* 成果報告会 12月23日（土）

- ・今回のプログラムには、本学経営学科の内田 亨ゼミナール3年の学生が参加した。このゼミナールの学生たちによって、スマート農業を導入したいと考えている農家と同農業に関心のある企業を結びつけるという実現性の高いビジネスモデルが提案された。また、本プログラムに参加した学生から今の若者（学生）が職業として普通に農業を選択肢の中に入れるようにするためにはどうすればよいのか、について極めて示唆に富む報告が行われた。両報告は互いに関連性が高く、両者のアイデアを組み合わせることで将来的に、本学など直接農業に関連しない大学においても、農業分野に人材を送り出せる、あるいはそれに貢献できる人材を育成できる可能性のあることが示されたことは大きな収穫であった。

4 課題

- ・今回は、新潟市から本学にモデル校としての打診がきていることが教員に報告された時期が遅かったこともあり、学内教職員・学生への周知が行き届かなかった。このため、参加者が10名程度と少なかった。また、最も参加してもらったかった情報システム学科の学生の参加者が皆無であったことはたいへん残念であった。次回に向けて教員をも巻き込んだ対応を考えていきたい。
- ・現地視察に際して、交通費が1回につき3万円限度は実施校としては苦しいといわざるを得ない。次年度にむけて遠隔地での現地視察を考えるとネックとなる点である。

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	味方小学校		学年	第5学年（32人）		
教科等	総合的な学習の時間		関連 SDGs	12 つくる責任 つかう責任		
単元名	地域を支える農業を次世代へつなぐ～味方の未来を考える～（70時間）					
ねらい	地域や新潟市の米作りの現状や今後の農業の在り方について調べたり体験したりすることを通して、新潟市の米作りへ関心を持ち、今後の地域や新潟市のために自分ができることや協働して取り組むべきことを考え、実行できるようにする。					
評価規準	<p>【知識・技能】・新潟市は米作り盛んで、今後もみんなで力を合わせて大切にしていきたいものであることを理解している。</p> <p>・新潟市の米作りに関する理解は、持続可能な社会を実現するために解決すべき課題について探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p> <p>【思・判・表】・地域や新潟市の米作りについての関心をもとに、課題をつくり、解決の見通しをもっている。</p> <p>・課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。</p> <p>・課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。</p> <p>・相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。</p> <p>・地域や新潟市との関わりの中で自分にできることを見付けようとしている。</p>					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	<ul style="list-style-type: none"> ・南区（味方）の農家の話 ・スマート農業や先進的な取組をしている会社 ・他の区での米作りの状況 <p>（10時間）</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・環境に優しいとうがらし入り玄米黒酢コーヒーの作り方を調べ、作り、学校田で、ドローンで散布してもらい、スマート農業に関心をもつ。 <p>（10時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西蒲区の中之口東小学校とオンラインで、それぞれの米作りについて紹介し合い、自分たちの取組を見直し、今後の取組の見通しをもつ。 <p>（10時間）</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・稲刈りを通して、自分たちの作った米に愛着を持ったり農家の大変さを知ったりし、収穫した米の扱いについて話し合い今後の活動の見通しをもつ。 <p>（10時間）</p>
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫した米を市内3か所に置かせてもらい販売し、自分たちの取組を広める。 ・中之口東小学校とオンラインで稲刈りの様子や今後の活動について交流しあう。 <p>（10時間）</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に学びフェスタや味方小食育フォーラムを通して、米の大切さや農家の仕事のこと等、学んだことを発表する。 <p>（10時間）</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの取組をまとめ、味方地域の良さや米作りの素晴らしさなどを伝える活動をする。また、お世話になった方々へ給食で提供して、感謝の気持ちを表す。 <p>（10時間）</p>	



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告

学校名 味方小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・すじまき、田植え、稲刈りなどを体験し、米作りの大変さや難しさを実感する。
- ・自分たちの米の特徴をもたせるために減農薬に挑戦する。減農薬をどのようにすればよいかを調べて「トウガラシ入り黒酢コーヒー」を作り、農薬の代わりにする。
- ・「トウガラシ入り黒酢コーヒー」を散布する際に手作業で撒く場合とドローンを使って撒く場合とを比較し、手作業の大変さやスマート農業の便利さを知る。
- ・味方のよさを広げるために減農薬で作った米を販売する。米を売る大変さや難しさ、喜びを体験し、農家の気持ちを考える。
- ・学びフェスタでの発表を通して味方の魅力を考え、自分たちの米づくりや米以外の味方の魅力についても考える。
- ・地域教育コーディネーターから農家の仕事について話を聞き、農家の仕事の現状ややりがいについて知る。農家の仕事に興味をもったり、食べ物を大切にしようとする思いをもったりする。

2 主な協力団体・協力者等

- ・地域教育コーディネーター様
- ・七穂ライスセンター様（ドローン）
- ・シャイン七穂様（資材費支援）
- ・アグリ吉江様（作業機械支援）
- ・JA新潟かがやき様（精米）
- ・イオン青山店様（販売支援）
- ・アピタ新潟西店様（販売支援）
- ・いっぺこ〜と様（販売支援）
- ・南区社会福祉協議会様（義援金支援）
- ・保護者ボランティアの皆様



田植えの様子



ドローン散布の様子



稲刈りの様子

3 成果

- ・スマート農業を学習することで、その利便性や効率性を実感できた。
- ・収穫した米を自分たちで食べたり、給食に出したりしたことで米のありがたみを知り、「これからはもっと大事に食べていきたい」という思いが強くなった。
- ・「トウガラシ入り黒酢コーヒー」を使うことで特徴のある米を作ることができた。
- ・「味米5」と米の名前を付けることでより愛着をもつことができた。
- ・米販売を通して自分たちの米のよさを実感し、味方の魅力について考えるきっかけになった。
- ・学びフェスタにて、縦割り班で味方の魅力について考える話し合い活動をしたことで、他の学年の意見を参考にして米以外の魅力についても考えを広げることができた。
- ・地域教育コーディネーターの話から農家の現状や仕事について知り、これからの味方のことや米のことについて考えることができた。

4 課題

- ・農作物を扱うため活動できる期間が限られる。年度当初に綿密な計画を立てることでより厚みのある活動ができるようになる。
- ・稲刈り前の時期は主に水管理で学校田に行ったが、学校田に行く機会をもっと増やし、生育具合を調べることでより米への愛着をもつことができるようになる。



米販売の様子



学びフェスタで地域に発表をする様子



地域コーディネーターから話を聞く様子



参観日での学んだこと発表会の様子

令和5年度「食と農のわくわくSDGs学習」実施計画

学校名	小針小学校		学年	第5学年（116人）		
教科等	総合的な学習の時間		関連SDGs	12 つくる責任 つかう責任		
単元名	小針の魅力を未来へ（70時間）					
ねらい	新潟市で米作りに関わっている方と交流したり、米に関して調べたりする活動を通して、米のフードロスが起きていることに気づき、社会の一員としてフードロス問題を解消するために自分にできることを考え、行動しようとする。					
評価規準	<p>【知識・技能】・地域には、昔から農業に携わり、様々な工夫や努力により、お米を生産する方々がいることを理解している。 ・農業を活性化する取り組みは、持続可能な社会を実現するための課題解決に繋がることに気付いている。</p> <p>【思・判・表】・地域や新潟市の米作りについての関心をもとに、課題をつくり、解決の見通しをもっている。 ・課題の解決に必要な情報を収集し、分類したり比較したりして、自分たちの活動に必要なものを選んでいる。 ・米の魅力を伝え、消費量を上げるために適した表現方法を選び、分かりやすくまとめている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・課題解決に向け、自分にできることを見付けようとしている。 ・他者と協働しながら、意見を出し合い、学ぼうとしている。</p>					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	<p>・社会科の米作りの学習で学んだ米の消費量の低下や後継者不足の問題が起きているのか調べる。 ・田植えの体験や農家の方の話を通して、農業の楽しさや大変さ、そこに携わる人の思いを知る。 （15時間）</p>		<p>・新潟の米作りの現状を知るために、稲作について調べたり、行政の方に新潟の農業の現状を聞いたりする。 ・専門家話から、世界で起きている課題を知り、解決するために、農業の活性化がどう生かせるか考える。 ・身の回りの米の消費量の現状を調べる。 （15時間）</p>		<p>・稲刈り体験を通して、米農家の努力や大変さを知る。 ・自分たちの地域だからこそこできることを考え、米の消費量を増やすための取組を考える。 （10時間）</p>	
	専門家の情報提供		専門家講師の派遣		専門家講師の派遣	
	新潟市農林水産部			新潟食料農業大学		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	<p>・米の消費量を増やすために「米が進むおかず」を考える。 （5時間）</p>		<p>・米の消費量の減少や米作りの工夫を伝えるために、ポスターやチラシ、リーフレットを作成する。 ・デザイナーの方に作成物へのアドバイスをもらい、修正を加える。 ・地域の方が米について関心をもてるように、自分たちの作成物を掲示してもらう。 ・自分たちが考えたおかずを給食で提供してもらう。 ・今年取組をPMIシートで分析する。 （25時間）</p>			
	専門家講師の派遣					
	報償費					
	デザイナー（GRAN D） 14,600円×2回=29,200円					



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告

学校名 小針小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・5年生社会科の教科書で「未来を支える食料生産」という単元がある。その単元で学習を始める際に、児童に「食料生産がなぜ未来を支えるのか」を考える時間を設けた。その中でSDGsという言葉が出たため、SDGsについて調べる時間（NHK for school）を設けた。
- ・新潟食料農業大学の岩坂先生より、SDGsに関して講演をして頂いた。

2 主な協力団体・協力者等

- ・新潟食料農業大学：岩坂健志様
- ・新潟市農林水産部食と花の推進課：目黒勝様
- ・米農家：田中貴之様
- ・GRAND：阿部光一郎様
- ・SINDBADCREATIVE：中川裕也様



講師（デザイナー）からの講演



講師（大学教授）から講演



田植え体験

3 成果

- ・児童のSDGsに関する興味関心は高くなり、他の教科（社会や道徳）や単元の学習している際も「これはSDGsに繋がるね」など関係付ける発言が出ていた。
- ・多くの外部講師と関わる中で、学校内だけでは学べない考えや事実を知ることができ、担任児童共々知見の広がる一年間になった。
- ・デザインの話は来年度の総合や児童会祭りで応用ができそうである。今年の学びで終わるのではなく、「得た知識を6年生でも活用したい」と答える児童がいた。
- ・TVで放送されていた米に関するニュースを自主的に録画したり、メモに起こしたりする児童がいた。児童の米への関心が高まっている姿だと思われる。
- ・講演が終わった後も講師に質問をする姿が見られ、主体的に学習に取り組んでいた。



給食で提供してもらったおかず



児童による作成物

4 課題

- ・SDGsと米を関係付けるのが難しい。
- ・どのような実践であれば、SDGsの視点を取り入れたことになるかを判断することが難しかった。
- ・SDGsについてより詳しい話ができる講師がいると良い。（今年は飢餓についてが主な内容だったため、SDGsと米を関係付けることが難しかった。

令和5年度「食と農のわくわく SDGs 学習」実施計画

学校名	新通つばさ小学校	学年	第5学年（60人）			
教科等	総合的な学習の時間	関連 SDGs	12 つくる責任 つかう責任			
単元名	大好きにいがた体験 わたしたちの食（米）（70時間）					
ねらい	地域や新潟市の米作りの現状や米の良さについて調べたり体験したりを通して、食や農業への関心や理解を深め、自分たちにできることを考え、実行できるようにする。					
評価規準	<p>【知識・技能】・新潟市の米作りの特徴や課題、米の良さ、米の可能性について理解している。 ・新潟市のインターネットや本、専門家の話から、必要な情報を収集している。</p> <p>【思・判・表】・新潟市の米への関心を基に、課題を設定し、解決の見通しをもっている。 ・集めた情報を分析し、発信する相手に合わせて取捨選択をしている。 ・これまでに学んだことを基に、自分たちにできることを考えている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】・探究的に学習を進めていく中で、自分のテーマや課題を修正したり、再設定したりしている。 ・自分で設定したテーマや課題について、様々な手段で解決しようとしている。 ・地域や新潟市との関わりの中で自分ができることを見付けようとしている。</p>					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	<ul style="list-style-type: none"> ・田起こし、すじまきから収穫して出荷するまでの米作りの一年を学習し、田植え体験に入る。 ・私たちの身近な「食」に関することについて社会科の食糧生産、農業を切り口に、日本人の主食「米」にテーマを絞る。 ・一人一つペットボトル苗を作り、米の成長の様子を知る。（15時間） 		<ul style="list-style-type: none"> ・おいしいご飯が炊けるまでの準備と、炊き方について学び、野外炊事体験で、自分たちが炊いたお米を味わう。 ・新潟の米作りの方法について調べ、他の県や地域と比べながら新潟の米が有名な理由を探る。（10時間） 		<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市や日本の米が抱える課題について知る。 ・農業と自分たちとの関わり、生産者の努力・苦労、安心安全への工夫、自己の食生活など自分のまとめたいテーマを決める。 ・新潟のお米がなぜ有名でおいしいか、まとめる。（10時間） 	
	専門家講師の派遣 農家、R10プロジェクトについて、プログラミング講師					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫した米の利用について考える。（2時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「R10プロジェクト」を基に、食料自給率の観点、米の利用の観点から米粉について、講師から話を聞いたり、調べたりする。 ・アグリパークで米粉の良さについて学習する。（15時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部へ発信する方法を考える。 ・プログラミングゼミを活用し、プログラミングを使った動画で、地域、保護者に米粉の良さを伝える。（10時間） 		<ul style="list-style-type: none"> ・1年の学習を振り返り、新潟の食について自分の考えをまとめる。（8時間） 	
専門家の情報提供 米粉にする業者の紹介、米粉の良さについて	交通費の助成（アグリパーク） 使用料及び賃賃料		学習成果の発信（地域、保護者）			
	バス代 102,960円（支援額 60,000円）					



SDGsで3つの視点を

 : 未来も
 : まわりも
 : みんなも

実施報告

学校名 新通つばさ小学校

1 本単元作成のポイント、留意点等

- ・新潟のお米は有名でおいしいと何となくわかっている子どもたちに、新潟のお米がなぜ有名でおいしいのか問い、社会の授業と並行して調べ学習を行い、新潟のお米のすばらしさに気づかせた。
- ・調べ学習を通してお米の自給率を上げる必要があることに気づかせる。そこで新潟県庁農林水産部食品・流通課の方から、「R10 プロジェクト」と米粉の良さについて、試食体験を入れて話をしていただいた。
- ・「R10 プロジェクト」に向けて、より米粉の良さを知るために、アグリパークの「考えてみよう！米粉からお米のこと」プログラムを行った。
- ・米粉の良さを広めるために、新潟大学工学部准教授の今村孝様より来ていただき、「プログラミングゼミ」というアプリを使って、まとめた。紹介する際は、保護者に公開できるよう QR コードを配付した。

2 主な協力団体・協力者等

- ・JA 新潟かがやき様
- ・新潟県庁農林水産部食品・流通課様
- ・アグリパーク様
- ・新潟大学工学部准教授 今村 孝 様

3 成果

- ・JA 新潟かがやきに田植え体験をさせていただいたことにより、児童は「今は、ほとんどの農家の人は、機械を使って田植えをしているんだと思うけど、手でやるととても大変なことが分かりました。またできる時があったら、田植えをやりたいです。」と、農作業への意欲をもつことができた。
- ・新潟県庁農林水産部食品・流通課より、「R10 プロジェクト」について、お話しいただいた際、市販の米粉のパンと小麦粉のパンを用意し試食体験を行った。新潟の稲作の課題や米粉技術などについて理解を深め、「米粉を使って料理をしてみたい」

という思いをもつことができた。またお米の大切さを感じ、給食のご飯を残さないように取り組みを始めた。

- ・アグリパークでの活動で、米粉の蒸しパンと小麦粉の蒸しパンを作ったことにより、粉の混ざり具合、粉ふるいの落ちる早さなど作りやすさの違いに気付くことができた。

さらに、米粉の蒸しパンと小麦粉の蒸しパンの食べ比べをした。児童は食感、甘さ、色などの違いに気付くと同時に、米粉の蒸しパンのおいしさに気付くことができた。また食べた後に、米粉についての学習や新潟市の稲作に関わる授業を行っていただき、新潟市の稲作や米粉の技術について知ることができ、「自分でも作ってみたい」「米粉を広めたい」という思いをもった。

- ・新潟大学工学部准教授今村様により、「プログラミングゼミ」の使い方を教えてもらったり、サンプルを作ってもらったりした。子どもたちはイラストを考える人、内容を考える人、プログラミングをつくる人で役割分担をし、取り組んだ。作ったものは保護者に見てもらい、子どもたちも達成感を感じた。

4 課題

- ・プログラミングを使ったまとめは、作成に時間がかかった。そのため、公開する範囲が狭まった。事前にプログラミングを学習する機会を作っておく必要があった。
- ・米粉のよさを発信するとき、情報整理し内容を精選する活動が不十分であったため、全員が似た内容の作品となった。今までの活動を振り返りよりよく考えるよう働き掛けることが必要であった。



図1：R10プロジェクトの講話



図2：プログラミング講習会

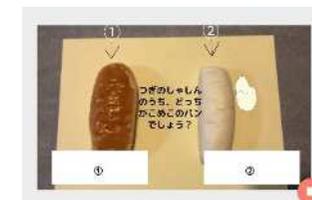


図3：実際のプログラミング作品



食と農のわくわくSDGs学習
令和5年度取組校 実践事例集



SDGs 新潟市
未来都市

発行者 新潟市教育委員会学校支援課
新潟市農林水産部食と花の推進課

発行日 2024年4月30日
